

『精選古典探究 漢文編』（古探 705）年間学習指導計画作成のための資料

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
4	漢文編 第一部	『論語』——私の古典	1	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「言葉は、複雑な人間関係の、無限にひろがる感情の一つのシンボルとして初めて、感動的な意味をもつ。」とはどういうことか説明する。 ・「はっと『論語』がわかった」という筆者の体験を参考にして、〈わかる〉という経験をするために大切なことは何だと考えるか話し合う。 <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p>知・技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めること。((2)ア) ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。((2)エ) <p>思・判・表</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。(Aキ) ② 古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすること。(Aク) <p>主</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について進んで理解を深め、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりし、学習の見通しをもって古典を学ぶ上で大切なことは何か話し合おうとしている。

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
4 ～ 5	一 故事成語	<p>画竜点睛</p> <p>病入膏肓</p> <p>杞憂</p> <p>塞翁馬</p> <p>呉越同舟</p> <p>学びを広げる 故事をたずねる 故事成語のおもしろさ(合山究)</p> <p>● 故事の内容を読み取る ● 故事成語が現在どのような意味で使われているのか理解する ● 言葉のもつ奥行きについて考える</p>	3	<p>◆ 学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>・ 「張僧繇」がどのような画家であったか話し合う。</p> <p>・ 景公が緩を良医と判断した理由を説明する。</p> <p>・ 「憂彼之所憂者」の二つの「憂」について、それぞれ何を「憂」えているか説明する。</p> <p>・ 「其人」と「暁之者」が「大喜」となったのは理由を説明する。</p> <p>・ 「善術者」の身に起こったできごとについて順を追って整理し、それぞれ「禍」と「福」とに分ける。</p> <p>・ 「化」と「深」がそれぞれ本文中でどのような意味で使われているか説明する。</p> <p>・ 「率然」の話と、「呉人」・「越人」の話との共通点を説明する。</p> <p>・ 現代の文章で使われている故事成語を探し、その言葉の由来を調べて発表する。</p> <p>◆ 学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p>知・技</p> <p>・ 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。((1)ア)</p> <p>・ 古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めること。((2)ア)</p> <p>・ 時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めること。((2)ウ)</p> <p>思・判・表</p> <p>① 文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えること。(Aア)</p> <p>② 関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。(Aキ)</p> <p>③ 古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすること。(Aク)</p> <p>主</p> <p>・ 時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について進んで理解を深め、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉え、学習課題にそって故事成語の由来を調べて発表しようとしている。</p> <p>◆ 言語活動例</p> <p>・ 古典の作品に関連のある事柄について様々な資料を調べ、その成果を発表したり報告書などにまとめたりする活動。(Aオ)</p> <p>・ 往来物や漢文の名句・名言などを読み、社会生活に役立つ知識の文例を集め、それらの現代における意義や価値などについて随筆などにまとめる活動。(Aキ)</p>

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
6 7	二 漢詩	<p>近体詩 鹿柴 宿建德江 涼州詞 春夜 送友人 送僧歸日本 【参考】在唐憶本郷 登高 遊山西村</p> <p>学びを広げる 訳詩の試み 漢文を読むために①近体詩の成立</p> <ul style="list-style-type: none"> ●詩に描かれた情景や心情を読み取る ●詩形や押韻、詩の構造を把握する ●日本の言語文化における漢詩の意義について考える 	5	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの詩に表現されている情景や心情についてまとめる。 ・好きな詩を選んで暗唱する。また、その詩について鑑賞文を書く。 <p>・「静夜思」の訳の中から好きな訳を一つ選び、その理由を説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近体詩の中から一つ選び、表現の仕方を工夫して訳す。 <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p>知・技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めること。(1イ) ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めること。(1エ) ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めること。(2ア) ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めること。(2イ) <p>思・判・表</p> <ol style="list-style-type: none"> ①文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えること。(Aイ) ②古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすること。(Aオ) ③古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。(Aカ) ④古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすること。(Aク) <p>主</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について進んで理解を深め、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉え、学習課題にそって表現の仕方を工夫して近体詩を訳そうとしている。 <p>◆言語活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典を読み、その語彙や表現の技法などを参考にして、和歌や俳諧、漢詩を創作したり、体験したことや感じたことを文語で書いたりする活動。(Aウ)

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
9 月 10	三 史 伝	史記 鴻門之会	6	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 沛公の発言から、どのような意図が読み取れるか話し合う。(剣舞) 范増と項王の心情はそれぞれどのようなものか説明する。(剣舞) 樊噲の主張の要点を箇条書きにしてまとめる。(壮大樊噲) 沛公が無事に脱出できた理由を話し合う。(沛公脱出) 「沛公脱出」の場面における范増の心情を説明する。(沛公脱出) <p>・項王と沛公の性格がよく表れている部分をそれぞれ指摘し、比較する。</p> <p>・項王側と沛公側のそれぞれの登場人物について、心理と役割とを整理する。</p> <p>・「鴻門之会」の本文を台本に見立て、せりふの朗読をする。</p> <p>・項王の詩から、どのような心情が読み取れるか話し合う。</p> <p>・項王が烏江を渡ることを思いとどまった理由を説明する。</p> <p>・部下に、馬を下りて歩行することを命じた項王の心情について話し合う。</p> <p>・それぞれの詩に表現された、項王に対する思いを説明する。</p> <p>・項王の生きざまについて考えたことを話し合う。</p> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p>知・技</p> <ul style="list-style-type: none"> 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。(1ア) 古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。(1ウ) 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めること。(1エ) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めること。(2イ) 先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。(2エ) <p>思・判・表</p> <ol style="list-style-type: none"> 文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えること。(Aイ) 古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすること。(Aオ) 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。(Aカ) 古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすること。(Aク) <p>主</p> <ul style="list-style-type: none"> 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて進んで理解を深め、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉え、学習課題にそって登場人物の立場や心情について話し合おうとしている。 <p>◆言語活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> 同じ題材を取り上げた複数の古典の作品や文章を読み比べ、思想や感情などの共通点や相違点について論述したり発表したりする活動。(Aイ) 古典の作品について、その内容の解釈を踏まえて朗読する活動。(Aエ)
		学びを広げる せりふの朗読			
		四面楚歌			
		項王最期			
		学びを広げる 項王の生きざま 漢文を読むために②歴史はいかに記述されたのか			
		●作品の背景を理解し、それぞれの登場人物の立場や役割を読み取る			
		●それぞれの登場人物の性格や心情を読み取る			
		●項王の生き方について考える			

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
11	四 文章	<p>漁父辞</p> <p>学びを広げる 対立する人生観 古典の扉 漁師と隠者</p> <p>春夜宴桃李園序 【参考】日本永代蔵 奥の細道</p> <ul style="list-style-type: none"> ●音読することで、文章のリズムを味わう ●それぞれの文章に表現された主張を読み取る ●それぞれの主張に対して、自分の意見をもつ 	4	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁父の歌は、どのようなことをいおうとしたものか説明する。 ・屈原と漁父の考え方の違いをまとめる。 ・漁父と屈原、どちらの考え方を支持するか、立場を明らかにしてディベート形式で討論する。 ・文章のリズムや、言葉の響きを確認しながら、本文を朗読する。 ・李白がこの文章でどのような楽しみを述べているか、まとめる。 <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p>知・技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めること。(1)エ) ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。(2)エ) <p>思・判・表</p> <ol style="list-style-type: none"> ①文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えること。(A イ) ②必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価すること。(A ウ) ③古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすること。(A オ) ④古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。(A カ) <p>主</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について進んで理解を深め、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価し、学習課題にそって登場人物の主張に対して自分の意見を述べようとしている。 <p>◆言語活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典の作品や文章を読み、その内容や形式などに関して興味をもったことや疑問に感じたことについて、調べて発表したり議論したりする活動。(A ア)

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
12	五 思想	儒家・道家の思想 論語 孟子 荀子 老子 莊子 学びを広げる 儒家と道家 ●儒家と道家、それぞれの考え方を読み取る ●儒家と道家の思想の違いを理解する	6	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ・孔子は、「君子」の姿勢についてどのようなことを重視しているか説明する。 ・孔子は「政」で何が大切だと述べているかまとめる。 ・孟子は、民にとっての「恒産」と「恒心」はどのような関係にあると述べているかまとめる。(無恒産而有恒心者) ・孟子は、「孺子のたとえによってどのようなことをいおうとしているか説明する。(不忍人之心) ・「惻隠」「羞惡」「辞讓」「是非」と、「仁」「義」「礼」「智」との関係はどのようなものか整理する。(不忍人之心) ・荀子が「人之性悪」と考える理由を説明する。 ・孟子の考え方と荀子の考え方について、どちらにより共感するか話し合う。 ・「大道」が廢れて、「仁義」があるというのはどのようなことか説明する。(大道廢、有仁義) ・「無用之用」とはどのようなことか説明する。(無用之用) ・莊子は、「曳尾於塗中」でどのような生き方がよいといっているか説明する。(曳尾於塗中) ・「七竅」を得ることによって「渾沌」が死ぬとは、どのようなことを意味しているか説明する。(渾沌) ・儒家と道家の思想をそれぞれまとめ、その違いについて話し合う。 ・身のまわりの事柄から儒家や道家の思想につながる例を探し、発表する。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	知・技 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めること。(2ア) ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。(2エ) 思・判・表 ①古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。(Aカ) ②関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。(Aキ) 主 ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について進んで理解を深め、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりし、学習課題にそって儒家と道家の思想につながる例を発表しようとしている。 ◆言語活動例 ・古典の作品に関連のある事柄について様々な資料を調べ、その成果を発表したり報告書などにまとめたりする活動。(Aオ)

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
1 月 2	六 小 説	<p>桃花源記</p> <p>【参考】小国寡民</p> <hr/> <p>売鬼</p> <hr/> <p>学びを広げる さまざまな「鬼」</p> <p>●小説の構成や展開を理解し、内容を読み取る</p> <p>●非日常的な世界の話を読むことの意義を考える</p>	5	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桃花源は、どのような所として描かれているか、風景や住人の様子などに注目して説明する。 ・桃花源の人が「不足為外人道也。」と言った理由を話し合う。 <p>・本文に登場する「鬼」の特徴をまとめる。</p> <p>・この話のおもしろさについて話し合う。</p> <p>・これまでに学習した作品や、知っている作品に登場する「鬼」について調べ、その作品における特徴をまとめる。さらに、各作品の「鬼」の共通点や相違点を比較し、レポートにまとめる。</p> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p>知・技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。((1)ア) ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。((1)ウ) ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めること。((2)イ) ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。((2)エ) <p>思・判・表</p> <ol style="list-style-type: none"> ①文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えること。(Aア) ②古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすること。(Aオ) ③古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。(Aカ) ④関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。(Aキ) <p>主</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について進んで理解を深め、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりし、学習課題にそって非日常的な世界を扱った作品について調べたことをまとめようとしている。 <p>◆言語活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典の作品に関連のある事柄について様々な資料を調べ、その成果を発表したり報告書などにまとめたりする活動。(Aオ)

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
2 月 3	七 日本の漢詩文	日本の漢詩文 自詠 山茶花 夜下墨水 悼亡 無題 送夏目漱石之伊予 航西日記 池亭記 取塩於我国 【参考】題不識庵擊機山図 桜巒春容 学びを広げる 身近にある漢詩文 ●さまざまな時代に書かれた日本の漢詩文を読み、それぞれの作品の内容を読み取る ●身近にある漢詩文を探し、日本の言語文化における漢詩文の意義について考える	5	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ・それぞれの詩に表現されている情景や心情についてまとめる。 ・好きな詩を選んで鑑賞文を書く。 ・筆者は「賢主」「賢師」「賢友」のどのような点を評価しているか、それぞれ整理する。 ・筆者の暮らしぶりについてまとめる。 ・筆者が求める生き方はどのようなものか、またその生き方についてどのように考えるか話し合う。 ・謙信にとって信玄はどのような存在だったか話し合う。 ・筆者は「飛鳥・墨陀」の春の様子をどのように捉えているか、まとめる。 ・筆者は「相馬氏邸内」の春の様子をどのように評価しているか説明する。 ・生活の中に取り入れられた漢詩や漢文を探し、書かれている言葉について調べる。また、それらが自分たちの日常生活の中でどのような役割を担ってきたか話し合う。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	知・技 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。((1)ア) ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めること。((1)イ) ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めること。((2)ア) ・時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めること。((2)ウ) 思・判・表 ①文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えること。(Aイ) ②作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。(Aエ) ③関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。(Aキ) 主 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について進んで理解を深め、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察し、学習課題にそって現代の日本の言語文化における漢詩文の役割について話し合おうとしている。 ◆言語活動例 ・古典の作品に関連のある事柄について様々な資料を調べ、その成果を発表したり報告書などにまとめたりする活動。(Aオ)

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
4	漢文編 第一部	「莊子」と素粒子	1	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物理学者である筆者が『莊子』を「面白いことでもあり、驚くべきことでもある。」と考えている理由を話し合う。 ・これまでに読んだ古典の中から、「真理が含まれている」と感じたものを紹介する。 <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p>知・技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めること。(2)ア) ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。(2)エ) <p>思・判・表</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。(Aキ) ② 古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすること。(Aク) <p>主</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深め、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりし、学習の見通しをもってこれまでの古典学習を振り返り、古典を学ぶ意味について考えようとしている。

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
4 月 5	一 小話	不死之薬	4	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「中射之士」の「王」に対する弁明の内容を、二点に分けて説明する。 ・「中射之士」が言った「可食乎。」の「可」と「謁者」が言った「可。」の「可」との違いをふまえて、この話のおもしろさについて話し合う。 <p>三横</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周処が「有自改意。」となった理由を説明する。 ・清河が周処に伝えたかったことをまとめる。 <p>不顧後患</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「三者」にとっての「前利」と「後患」とは何か、それぞれ整理する。 ・呉王が荊を討つのをやめた理由を説明する。 <p>学びを広げる 諫言の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ●それぞれの作品の内容を理解し、小話のもつ面白さを読み取る ●表現の工夫を理解し、自分の言葉を豊かにする 	<p>知・技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。((1)ア) ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。((1)ウ) <p>思・判・表</p> <ol style="list-style-type: none"> ①文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えること。(A ア) ②古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすること。(A オ) ③古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。(A カ) ④古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすること。(A ク) <p>主</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにし、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりし、学習課題にそって表現の工夫について考えたことを発表しようとしている。 <p>◆言語活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・往来物や漢文の名句・名言などを読み、社会生活に役立つ知識の文例を集め、それらの現代における意義や価値などについて随筆などにまとめる活動。(A キ)

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
6 7	二 史 伝	史記 ——廉頗と藺相如—— 完璧帰趙 刎頸之交 ——荊軻—— 風蕭蕭兮易水寒 図窮而七首見 学びを広げる— 「列伝」にとりあげられた人々 ●作品の背景を理解し、それぞれの登場人物のおかれた立場や心情を読み取る ●『史記』が読み継がれてきた理由について考える	6	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ・藺相如が「和氏の璧」を秦に渡すべきだと進言した理由を、藺相如の発言をもとに整理する。 ・藺相如が秦王のどのような様子から「無意償趙城」と感じたか説明する。 ・藺相如が秦王に対してどのような論を展開したか整理する。 ・藺相如が廉頗と顔を合わせるのを避けた理由を説明する。 ・廉頗の藺相如に対する心情がどのように変化しているか、発言に注目してまとめる。 ・荊軻が怒った理由を説明する。 ・荊軻を見送る人々の様子からどのような心情が読み取れるか話し合う。 ・易水で詩を詠んだときの荊軻の心情を説明する。 ・荊軻の行動と心情を、順を追って整理する。 ・荊軻の最後の言葉からどのような心情が読み取れるか話し合う。 ・司馬遷が、廉頗・藺相如・荊軻といった人物について、歴史書である『史記』にとりあげた理由を話し合う。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	<p>知・技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めること。((1イ)) ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めること。((2イ)) ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。((2エ)) <p>思・判・表</p> <ol style="list-style-type: none"> ①必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価すること。(Aウ) ②作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。(Aエ) ③古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。(Aカ) <p>主</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典の作品や文章の種類とその特徴について進んで理解を深め、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察し、学習課題にそって『史記』の特徴や読み継がれてきた理由について考えを深めようとしている。 <p>◆言語活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典の作品に関連のある事柄について様々な資料を調べ、その成果を発表したり報告書などにまとめたりする活動。(Aオ)

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
9	三 漢詩	<p>古体詩</p> <p>桃夭 生年不満足 秋風辞 飲酒 兵車行 長恨歌</p> <p>【参考】桐壺</p> <p>学びを広げる 朗読会を開く</p> <p>●詩に描かれた情景や心情を読み取る ●内容の解釈をふまえて朗読することで、詩をより深く鑑賞する</p>	4	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの詩に表現されている情景や心情についてまとめる。 好きな詩を選んで、鑑賞文を書く。 <p>●好きな詩を選んで朗読会をする。その際、詩の解釈をふまえて句の切れ目や詩のリズムに留意して、聞き手に伝わるように工夫して読む。また、お互いの朗読を聞き、感想を交換する。</p> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p>知・技</p> <ul style="list-style-type: none"> 古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めること。(1イ) 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めること。(1エ) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めること。(2イ) <p>思・判・表</p> <ol style="list-style-type: none"> ①文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えること。(Aイ) ②古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすること。(Aオ) ③古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすること。(Aク) <p>主</p> <ul style="list-style-type: none"> 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について進んで理解を深め、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりし、学習課題にそって詩の解釈をふまえて鑑賞を深めようとしている。 <p>◆言語活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> 古典の作品について、その内容の解釈を踏まえて朗読する活動。(Aエ)

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
10 ～ 11	四 小説	<p>人面桃花</p> <hr/> <p>酒虫</p> <hr/> <p>葉限</p> <hr/> <p>学びを広げる 小説の翻案 漢文を読むために③中国における「小説」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●登場人物の言動や話の展開を理解し、内容を読み取る ●関連作品と読み比べ、相違点や共通点を理解する ●さまざまな文章の典拠として利用される、古典の広がりについて考える 	4	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「去年今日……」の詩には、崔護のどのような心情がこめられているか説明する。 ・老父が「君殺吾女」と言った理由を説明する。 ・女が死んだ理由と、生き返った理由を説明する。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・酒虫を取り除く前と後で、劉氏の外見と生活がどのように変化したかまとめる。 ・酒虫を取り除くことは、劉氏にとってどのような意味をもっていたか、「異史氏」と「或」の考えを参考に話し合う。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・「一鱗」はどのような魚かまとめる。 ・「当随爾也。」とはどのようなことをいっているか、本文中の具体例をもとに説明する。 ・知っているシンデレラの話と比較し、共通点と相違点を整理する。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・中国の小説を翻案して近代以降に書かれた作品を探し、もととなった話の使われ方に注目して読み比べる。 <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p>知・技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。(1)ウ) ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めること。(2)ア) ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めること。(2)イ) <p>思・判・表</p> <ol style="list-style-type: none"> ①文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えること。(Aア) ②必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価すること。(Aウ) ③関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。(Aキ) ④古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすること。(Aク) <p>主</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて進んで理解を深め、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉え、学習課題にそって中国の小説と翻案作品とを読み比べようとしている。 <p>◆言語活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ題材を取り上げた複数の古典の作品や文章を読み比べ、思想や感情などの共通点や相違点について論述したり発表したりする活動。(Aイ)

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
11 ～ 12	五 三国志の世界	<p>三国志の世界</p> <p>桃園結義</p> <p>三往、乃見</p> <p>張翼徳大關長坂橋</p> <p>学びを広げる 読み比べ『三国志』と『三国志演義』</p> <p>進遇於赤壁</p> <p>股肱之力</p> <p>学びを広げる 「三国志」の世界 古典の扉 神様になった関羽</p> <p>●登場人物の言動から、それぞれの場面における心情を読み取る</p> <p>●「三国志」の世界が、時代やジャンルを超えて受容されてきた意義について考える</p>	5	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>・「此心」とはどのような心か、誓いの内容をもとに整理する。</p> <p>・劉備は、漢の状況をどのように捉え、諸葛亮に何を求めているか説明する。</p> <p>・「以弱為強者」とはどのような者のことか説明する。</p> <p>・張飛はどのような態度で曹操軍と対峙しているか説明する。</p> <p>・曹操が退却する様子はどのように描かれているかまとめる。</p> <p>・「横鎗立馬眼円睜」の句と「一声好似轟雷震」の句は、本文のどの部分と対応しているか、それぞれ整理する。</p> <p>・『三国志』と『三国志演義』を読み比べて、張飛の言動の描かれ方の違いについて、感じたことや考えたことをまとめる。</p> <p>・周脣たちが曹操を迎え撃つために考えた作戦を整理する。</p> <p>・曹操は、孫権をどのように評価しているか説明する。</p> <p>・劉備が諸葛亮に「君可自取」と言った理由を話し合う。</p> <p>・この單元の中から最も印象に残った話を選び、選んだ理由を説明する。</p> <p>・「三国志」を題材とした作品を、小説・漫画・ゲームなどさまざまなジャンルの中から探し、その中で「三国志」の世界がどのようにいかされているか調べ、発表する。</p> <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p>知・技</p> <p>・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めること。((1)イ)</p> <p>・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めること。((2)ア)</p> <p>・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。((2)エ)</p> <p>思・判・表</p> <p>①必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価すること。(Aウ)</p> <p>②関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。(Aキ)</p> <p>③古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすること。(Aク)</p> <p>主</p> <p>・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について進んで理解を深め、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、学習課題にそって「三国志」の世界が現代まで広く受容されてきた理由や意義について考えを深め、まとめようとしている。</p> <p>◆言語活動例</p> <p>・同じ題材を取り上げた複数の古典の作品や文章を読み比べ、思想や感情などの共通点や相違点について論述したり発表したりする活動。(Aイ)</p> <p>・古典の作品に関連のある事柄について様々な資料を調べ、その成果を発表したり報告書などにまとめたりする活動。(Aオ)</p>

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
1 月 2	六 思想	思想と寓話 孟子 荀子 老子 莊子 列子 韓非子 墨子 学びを広げる 寓話の意図 古典の扉 諸子の思想と寓話 ●寓話として表現された思想を読み取る ●寓話を用いることの意図や効果について考える	6	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ・孟子は梁の恵王に対して、「利」を退け「仁義」をすすめる理由をどのように述べているか整理する。(何必曰利) ・告子は「湍水」のたとえによって、人の性はどうなものだと述べているか説明する。(性猶湍水也) ・孟子は、告子の説に対して、同じ「水」のたとえを用いてどのように自説を述べているか整理する。(性猶湍水也) ・「学不可以已」と主張する理由について、本文中で使われているたとえをもとに説明する。 ・老子は、水の性質についてどのように考えているか、またそこから老子のどのようなものが見方がわかるか話し合う。 ・莊周の体験から、夢と現実の関係はどのようなものだと考えられるか話し合う。 ・「北山愚公」と「河曲智叟」のそれぞれの考え方を整理し、「愚公」「智叟」という名前を用いた意図について話し合う。 ・「論世之事、因為之備。」とはどういうことか、本文中で使われている例をもとに説明する。 ・「為新聖笑矣。」「為宋国笑。」とあるが、それぞれ笑いとなる理由を説明する。 ・不義を段階に分けて論じた第一段落の内容を整理する。 ・「情不知其不義也。」という表現からわかる、この文章の主張を説明する。 ・それぞれの思想家のものの見方・考え方についてまとめ、感じたことや考えたことを話し合う。 ・思想家が寓話を用いる意図や効果について考えたことを話し合う。	[知・技] ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めること。(1)イ) ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。(2)エ) [思・判・表] ①必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価すること。(Aウ) ②古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすること。(Aオ) ③古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。(Aカ) ④関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。(Aキ) [主] ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深め、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりし、寓話を用いた表現の意図や効果について考えたことを発表しようとしている。 ◆言語活動例 ・古典を読み、その語彙や表現の技法などを参考にして、和歌や俳諧、漢詩を創作したり、体験したことや感じたことを文語で書いてみる活動。(Aウ)

月	単元名	教材名 ●学習目標	時	主な学習活動	評価規準 ◆言語活動例
2 月 3	七 文章	師説	5	<p>◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの段落ごとに、論の展開を整理する。 作者が「師」についてどのように考えているか話し合う。 	<p>知・技</p> <ul style="list-style-type: none"> 古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めること。(1)イ) 古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。(1)ウ) 先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。(2)エ) <p>思・判・表</p> <ol style="list-style-type: none"> 作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。(A エ) 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。(A カ) 関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。(A キ) <p>主</p> <ul style="list-style-type: none"> 古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深め、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりし、学習課題にそって唐宋八大家について調べたことをまとめようとしている。 <p>◆言語活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> 古典の作品に関連のある事柄について様々な資料を調べ、その成果を発表したり報告書などにまとめたりする活動。(A オ)
		捕蛇者説		<ul style="list-style-type: none"> 各段落の要旨をまとめ、文章の構成を説明する。 蔣氏が「安敢毒敢」と述べる理由を説明する。 作者がこの文章を書いた意図について話し合う。 	
		赤壁賦		<ul style="list-style-type: none"> 客は、どのような思いで洞簫を吹いていたと説明しているか整理する。 「盈虚者如彼、而卒莫消長也。」という部分に注目して蘇子のいいかかったことをまとめる。 	
		学びを広げる 唐宋八大家		<ul style="list-style-type: none"> 唐宋八大家に選ばれた人物やその文章の特徴、彼らが注目された背景などについて調べ、レポートにまとめる。 <p>◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。</p>	
		<ul style="list-style-type: none"> ●文章の表現や構成をもとに内容を読み取る ●唐宋八大家について理解する 			